

## 9月彼岸出荷向け白色小ギク新品種候補 「ひたち29号」(仮称)と「ひたち30号」(仮称)の育成

農業総合センター生物工学研究所・園芸研究所

### 【研究の概要】

小ギクは本県の主力切り花品目であり、全国的にも主要な産地です。小ギクの主な用途は仏花用のため、盆と彼岸の物日出荷が重要ですが、近年の夏季高温等の影響により開花時期のズレや重要病害である白さび病の発生が問題となっています。そのため、県では、近年の気候でも物日出荷が可能であり、白さび病の発生が少ない9月彼岸出荷向け白色小ギク「ひたち29号」と「ひたち30号」を育成しました。



写真1 「ひたち29号」



写真2 「ひたち30号」

### 【「ひたち29号」及び「ひたち30号」の特性】

#### <両系統共通>

- 令和元年に「わかさ」と「15c29」を交雑して得られた実生集団から、令和2年に開花時期・花色・草丈・白さび病耐病性を基準に一次選抜しました。その後、令和3年度～令和7年度にかけて所内で栽培し、特性を調査しました。
- 生産者からは現地適応性、市場・流通関係者からは市場性について評価を得ました。
- 通常の露地栽培での採花時期は8月下旬から9月下旬であり、9月彼岸出荷に適します。
- 白さび病の発生は極めて少ないため作りやすく、電照処理による採花時期の調節が可能です。
- 市場・流通関係者による市場性評価及び現地適応性試験における生産者評価では、需要期に安定して出荷可能な開花期が高く評価されました。

#### <「ひたち29号」>

- 花色は白色で、可愛い半八重咲きです。
- 草丈の伸長がよく、茎が細めのすっきりした草姿で、段咲きになりやすい特徴があります。

#### <「ひたち30号」>

- 花色は白色で、すっきりした一重咲きです。
- バランスの良い草姿で、花房のまとまりがよくボリュームがありますが、草丈がやや伸長しにくい特徴があります。

### 【将来の展望】

- 市場関係者及び生産者からの評価が高く、主要な9月彼岸出荷向け白色品種として導入が見込まれます。
- 県内産地のニーズにあわせて本品種の導入が図られることで、将来的には年間約5万本の出荷を見込んでいます。
- 近年の気候条件下においても、物日出荷の実現による出荷単価の向上や、白さび病の発生低減による収量の増加等により、生産者所得の向上が期待されます。